**20 『古来風体抄』**

その後の法皇遺集をばせひて、今・二つの集にれる歌をへるにて、拾遺集と名付けⓐらるたるなり。よりて、古今・後撰・拾遺、これを三代集と申すなり。しかるを、この拾遺集をして、拾遺抄と名付けてありけるを、世の人これを今少びけるほどに、　Ａ　は  
(ア)あいなく少しされにけるⓑなりべし。この拾遺集もまた、後撰の後、①いくばく久しからざれども、(イ)なほ、古今・後撰にれたる歌も多く、当時のの歌も良き歌多かりける上に、万葉集の歌・が歌をも多く入れられたれば、良き歌もまことに多く、また、少し乱れたることもれる故に、抄はことに良き歌のみ多く、また、もやうやう下りⓒぬければ、今の世の人の心にもことにふにや、近き世の人の歌詠、多くはただ　Ｂ　の歌ふなるべし。

語　注

花山の法皇＝第六十五代の花山天皇のこと。

拾遺集＝拾遺和歌集。

古今・後撰＝古今和歌集・後撰和歌集。

大納言公任卿＝。博学多才な人物で、当時の歌壇の最高権威者。

抄す＝書き写す。抜き書きをする。

翫びけるほどに＝褒めたたえている間に。

人麿・赤人＝・。『万葉集』の代表的歌人。

風体＝歌風。

庶幾ふ＝願い望む。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓒの助動詞は、基本形になっている。それぞれ適当な活用形に活用させ、また、文法上の意味をそれぞれ次から選べ。（3点×3）

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　使役　　エ　断定

オ　完了　　カ　過去　　キ　詠嘆　　ク　打消

　助動詞 適当な活用形 意味

ⓐ　らる　〔　　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

ⓑ　なり　〔　　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

ⓒ　ぬ　　〔　　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

問2　□内の格助詞「が」の働きとして、最も適当なものを次から選べ。（8点）

ア　主格　　イ　同格　　ウ　連体修飾格

エ　　　オ　体言の代用

〔　　　〕

問3　波線部(ア)・(イ)の語句の本文中での意味として、最も適当なものをそれぞれ次から選べ。 （4点×2）

(ア)「あいなく」

　ア　待ち遠しく　　　イ　互いに　　　ウ　興味深く

　エ　不本意に　　　　オ　すぐ

〔　　　〕

(イ)「なほ」

　ア　やはり　　　イ　そして　　　ウ　そのまま

　エ　しかし　　　オ　すぐに

〔　　　〕

問4　傍線部①の解釈として最も適当なものを次から選べ。 （6点）

ア　かなり長い時間が経過したけれども、

イ　どれくらいの時がたったかわからないが、

ウ　それほど長く経過していないけれども、

エ　どれほど長い時間がたったのだろうか、

オ　随分久しぶりにできたものであるが、

〔　　　〕

問5　空欄Ａ・Ｂに入る歌集の組み合わせとして、最も適当なものを次から選べ。 （10点）

ア　Ａ＝拾遺集　　　　Ｂ＝拾遺抄

イ　Ａ＝拾遺集　　　　Ｂ＝拾遺集

ウ　Ａ＝拾遺抄　　　　Ｂ＝拾遺抄

エ　Ａ＝拾遺抄　　　　Ｂ＝拾遺集

〔　　　〕

問6　次は『万葉集』について説明した文章である。空欄①～③に入る語として最も適当なものを後から選べ。　　 （3点×3）

『万葉集』は現存するわが国最古の和歌集であり、（①）巻・約（②）首の歌が収められている。成立については不明な点が多いが、最終段階では（③）が関係していたと考えられている。

ア　二〇　　イ　一五　　ウ　三〇　　エ　二〇〇〇

オ　三五〇〇　　カ　四五〇〇　　キ

ク　　　ケ　藤原道長

〔　　　〕

練習問題〈助詞〉

次の空欄①～⑩に入る語をそれぞれ後から選べ。

格助詞「の」は、（①）・（②）・連体修飾格・体言の代用・比喩の働きがある。

接続助詞「ば」は已然形に付いた場合は「順接の（③）条件〔～ノデ・～カラ・～ト〕」となり、（④）形に付いた場合は「順接 の（⑤）条件〔モシ～ナラバ〕」となる。

副助詞は、「だに・（⑥）・（⑦）・（⑧）・ばかり・まで・など・し（しも）」の八つである。

係助詞「ぞ・なむ・や・か」の結びの語は（⑨）形、「こそ」の結びの語は（⑩）形となる。

＊①②は順不同。⑥⑦⑧は順不同。

ア　仮定　　イ　確定　　ウ　已然

エ　未然　　オ　連用　　カ　連体

キ　すら　　ク　さへ　　ケ　のみ

コ　主格　　サ　同格　　シ　引用

①　（　　　　） ②　（　　　　）

③　（　　　　） ④　（　　　　）

⑤　（　　　　） ⑥　（　　　　）

⑦　（　　　　） ⑧　（　　　　）

⑨　（　　　　） ⑩　（　　　　）

【解答】

問1　ⓐられ・イ　ⓑなる・エ　ⓒに・オ

問2　ウ

問3　(ア)エ　(イ)ア

問4　ウ

問5　ア

問6　①ア　②カ　③ク

【練習問題解答】

①コ　②サ　③イ　④エ　⑤ア　⑥キ　⑦ク　⑧ケ　⑨カ　⑩ウ

　＊①②は順不同。⑥⑦⑧は順不同。